

石巻市南浜地区復興祈念公園(仮称)基本計画について

【第1回 石巻市南浜地区復興祈念公園有識者委員会 資料】

平成27年10月7日

目 次

1. これまでの検討経緯	2
2. 市民フォーラムの概要	4
3. パブリックフォーラムの概要	5
4. 基本計画(案)に対するパブリックコメントの概要	6
5. 基本計画(案)に関する市民説明会の概要	7
6. 基本計画の概要	
(1) 基本理念と基本方針	8
(2) 空間構成基本コンセプト	9
(3) 基本構成図	10
(4) 植栽モード断面構成とイメージ	11
(5) 植栽タイプの配置案	13
(6) 杜づくりのプロセス	14

1. これまでの検討経緯

平成23年3月11日 東日本大震災の発生

平成23年度

平成23年12月

- ・ 石巻市が震災復興基本計画を策定
- ・ 震災復興基本計画で震災復興のシンボルとなる公園の整備を位置づけ

平成24年1～3月

- ・ 東日本大震災復興祈念公園検討会議
(事務局：国土交通省 都市局 公園緑地・景観課)
【行政による検討会議（計3回開催）】

- ・ 震災復興祈念公園基本構想検討会
(事務局：国土交通省 都市局 公園緑地・景観課)
【有識者委員会による技術的検討（計3回開催）】

平成24年3月

- ・ 「震災復興祈念公園の基本的あり方」を整理
(『東日本大震災に係る鎮魂及び復興の象徴となる都市公園のあり方検討業務 報告書 平成24年3月 国土交通省 都市局 公園緑地・景観課』をとりまとめ)

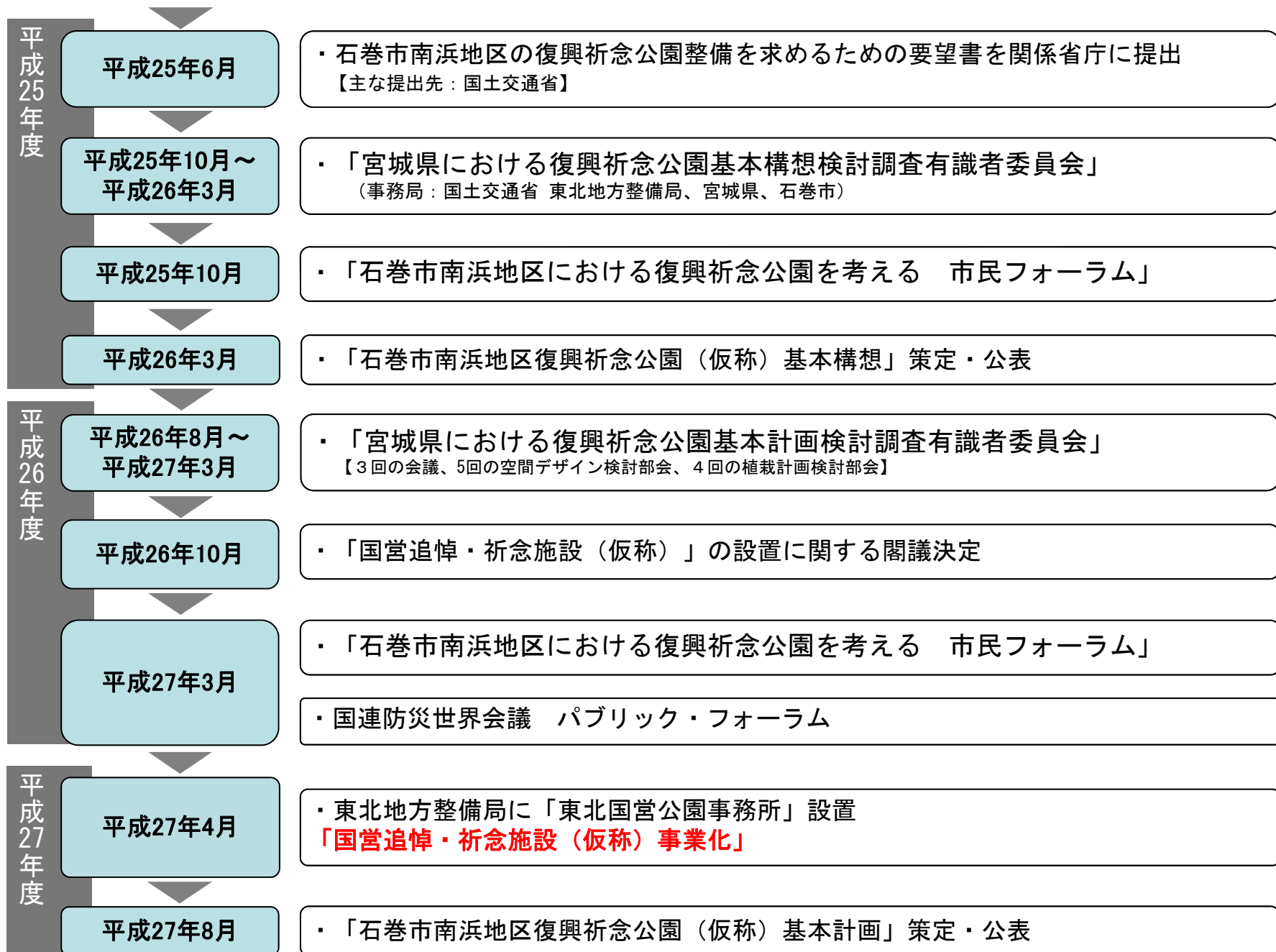
平成24年度

平成24年12月～
平成25年2月

- ・ 「南浜地区・中瀬公園 미래の公園づくりワークショップ」
(事務局：石巻市) 【子どもワークショップ：2回、一般ワークショップ：3回】



1. これまでの検討経緯



2. 市民フォーラムの概要

○石巻市南浜地区における復興祈念公園を考える 市民フォーラム

【開催日時】 平成27年3月8日(日) 10:00~12:30

【会 場】 石巻市保健相談センター 3階

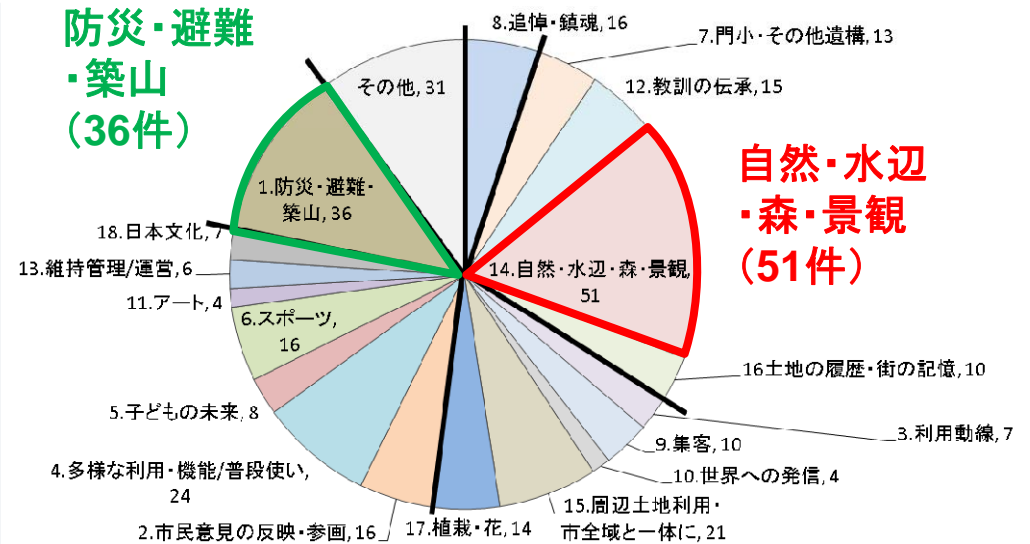
【参加者数】 55名

○基本計画(案)の説明、これまでの市民ワークショップの報告の後、ミニワークショップを実施

■ミニワークショップで得られた意見

○【自然・水辺・森・景観】、【防災・避難・築山】への関心が非常に高かった

○次いで、【多様な利用・機能/普段使い】、【周辺土地利用・市全域と一体に】への関心が高かった



過去のワークショップの報告(阿部氏)



各テーブルでの議論の様子



各テーブルのコメントの紹介

3. パブリックフォーラムの概要

○東日本大震災における復興祈念公園を考えるシンポジウム

【開催日時】 平成27年3月14日(土) 17:20～19:40

【会場】 仙台市シルバーセンター 7階 第1研修室

【参加者数】 約200名

○第3回国連防災世界会議のパブリックフォーラムの一環として、復興祈念公園の意義を広め、認知度を高めることを目的に開催。

ープログラムー

■講演「石巻市南浜地区における復興祈念公園について」：涌井 史郎

■講演「陸前高田市高田松原地区における復興祈念公園について」：中井 検裕

■パネルディスカッション

◆コーディネーター

涌井 史郎(東京都市大学教授)

◆パネリスト

赤坂 憲雄(学習院大学教授)

阿部 聡史(環境デザイナー)

牛尾 陽子(東北活性化研究センター フェロー)

岡本 翔馬(桜ライン311代表理事)

中井 検裕(東京工業大学教授) ※敬称略



講演の様子(涌井教授)



パネルディスカッションの様子

4. 基本計画(案)に対するパブリックコメントの概要

【募集期間】 平成27年5月20日(水)～6月18日(木)(約1ヶ月間)

【意見件数】 提出数:41通 意見数:88件

○意見をいただいた方の構成

- ・居住地は、石巻市が8割を占めた。
- ・年齢構成は、60歳代が29%と最も多かったが、30歳代が15%、50歳代が17%など、広い世代から意見をいただいた。

○意見の概要

- ・追悼と鎮魂の場のあり方、被災の実情と教訓を伝承するための手法など、具体的な提案の意見を多数いただいた。
- ・意見分類毎の意見数を見ると、基本理念や基本方針への意見よりも、より具体的な空間構成や公園の利用方法などへの意見が多く寄せられたことが分かる。
- ・公園の必要性についての否定的な意見もあるが、その総数は少ない。(2件)

No	項目	意見数
1	公園の必要性について	8
2	基本理念について	0
3	基本方針「犠牲者への追悼と鎮魂の場を構築する」	4
4	基本方針「被災の実情と教訓を後世に伝承する」	2
5	基本方針「復興の象徴の場としてメッセージを国内外に発信する」	1
6	基本方針「多様な主体の参画・協働の場を構築する」	5
7	基本方針「来訪者の安全を確保する」	2
8	空間構成 空間構成の考え方について	4
9	空間構成 主要動線と避難について	12
10	空間構成 空間配置方針について	12
11	空間構成 国・県・市の役割と機能区分	0
12	植栽計画について	4
13	管理・運営方針について	4
14	多様な利用方法・やりたいことについて	15
15	基本計画以外へのご意見	8
16	基本計画の具体的な修正の提案・指摘について	7
意見総数		88

5. 基本計画(案)に関する市民説明会の概要

【開催日時】 平成27年6月7日(日) 10:00～12:00

【会 場】 石巻市役所 本庁舎4階会議室

【意見件数】 参加者:35人 提出数:146通 意見数:151件

○参加者の構成

- ・居住地は、石巻市が7割弱を占めた。
- ・年齢構成は、60歳代が31%と最も多かったが、40歳代が20%、50歳代が20%など、広い世代から意見をいただいた。

○意見聴取の概要

- ・基本計画(案)の検討経緯や計画内容に関する説明の後、グループ討議を実施。
- ・パブリックコメントと同様に、具体的な空間構成や公園の利用方法などに関する意見が多く寄せられた。
- ・計画内容に関する意見・要望に止まらず、伝承活動など、具体的な市民活動に関する意見も多数いただいた。

No	項目	意見数
1	公園の必要性について	0
2	基本理念について	1
3	基本方針「犠牲者への追悼と鎮魂の場を構築する」	5
4	基本方針「被災の実情と教訓を後世に伝承する」	13
5	基本方針「復興の象徴の場としてメッセージを国内外に発信する」	1
6	基本方針「多様な主体の参画・協働の場を構築する」	14
7	基本方針「来訪者の安全を確保する」	2
8	空間構成 空間構成の考え方について	2
9	空間構成 主要動線と避難について	23
10	空間構成 空間配置方針について	25
11	空間構成 国・県・市の役割と機能区分	1
12	植栽計画について	10
13	管理・運営方針について	17
14	多様な利用方法・やりたいことについて	29
15	基本計画以外へのご意見	7
16	基本計画の具体的な修正の提案・指摘について	1
意見総数		151

6. 基本計画の概要

(1) 基本理念と基本方針(基本構想にて設定)

基本理念

東日本大震災により犠牲となったすべての生命(いのち)への追悼と鎮魂の思いとともに、

- まちと震災の記憶をつたえ
- 生命(いのち)のいとなみの杜をつくり
- 人の絆(きずな)をつむぐ

基本方針

・犠牲者への追悼と鎮魂の場を構築する

宮城県や被災地全体の追悼と鎮魂の中核的な場所として、祈りの空間を整備する。

・被災の実情と教訓を後世に伝承する

この地のこれまでの歴史と震災後の環境変化、被害を実感し、教訓を伝承する場を整備する。

・復興の象徴の場としてメッセージを国内外に発信する

美しい杜への再生により、震災からよみがえる被災地の姿と重ねあわせた復興の象徴空間を整備する。

・多様な主体の参画・協働の場を構築する

人と人とのつながりの再生が、真の復興につながるため、多様な主体が参画・協働できる場を構築する。

・来訪者の安全を確保する

適切な避難が円滑にできるよう、避難場所となる丘や周辺の高台への避難経路などを整備する。

6. 基本計画の概要

(2) 空間構成基本コンセプト

方針の概要

南浜地区における集落の成り立ちの歴史や風土を示すかつての「浜」と、震災前に蓄積された半世紀の南浜地区への想いや記憶を示す「街」を土地利用の基本的前提とし、そこから東日本大震災による犠牲者を追悼し、被災の教訓を次世代へと伝承していくことを祈念するための「**祈念公園**」としての機能をそれぞれ尊重することが重要である。

基本的な視点

浜の自然との係わり

- ・かつて湿地と松原であった場所。
- ・津波で街が消失、本来の自然に回帰しつつある。

街の記憶

- ・市街地が大津波で消失したが、暮らしの記憶を再生する手がかりが残っている。
- ・人々の心に暮らしの記憶がある。

追悼と伝承の祈念公園

- ・自然への畏敬の念と暮らしの記憶を持ち、追悼と教訓の伝承とともに、復興への意志を伝え続ける。
- ・命の尊さを実感する公園づくりを通じてこの土地に係わり続けていく。

～浜・街・祈念公園の場所性を重ねる～

- ・かつての環境と現状を踏まえ、土地本来の自然を育む。
- ・暮らしの記憶を街路網に刻み、これを感じる。
- ・追悼と鎮魂の思いとともに、まちと震災の記憶をつたえ、生命(いのち)のいとなみの柱をつくり、人の絆(きずな)をつむぐ。

祈念公園（東日本大震災後）

- ・式典や伝承が可能な中核的な空間
- ・公園全体が「犠牲者の追悼ができる」空間
- ・かつて街と暮らしがあったことを空間として実感できる場
- ・雨水調整と自然の育みを併せ持つ湿地・池沼
- ・美しい杜づくりと多様な主体の参画・協働
- ・来訪者の安全確保

祈念公園の役割

- 1 犠牲者への追悼と鎮魂
- 2 教訓の伝承
- 3 杜づくり
- 4 多様な主体の参画・協働の場
- 5 防災

街（昭和30年代～東日本大震災まで）

- ・利便性が高く、閑静な住宅地
- ・南浜町二丁目、三丁目からの宅地化の進展
- ・門脇地区（門脇町三～五丁目）、善海田地区（南浜町一～四丁目、門脇町五丁目）の土地区画整理事業
- ・石巻市立病院、石巻文化センター

浜（昭和20年代まで）

- ・浜横丁と南地の集落
- ・水田、湿地と畑
- ・浜堤の松原
- ・聖人堀

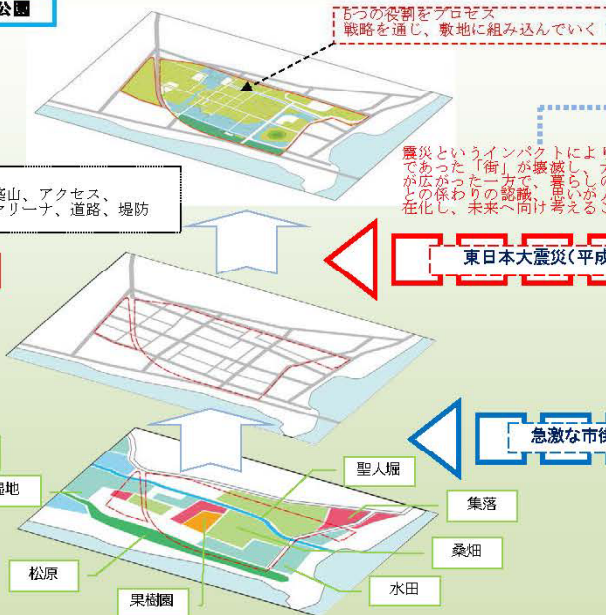
祈念公園

条件

- ・広場、避難築山、アクセス、雨水排水、マリナー、道路、堤防

街

浜



まちの役割をプロセス戦略を通じ、敷地に組み込んでいく

震災というインパクトにより、生活の場であった「街」が壊滅し、大きな喪失感があった一方で、暮らしの記憶・自然との係わりの認識、思いが人々の心に顕在化し、未来へ向け考えることとなった。

東日本大震災(平成23年)

急激な市街化(昭和30年代)

公園づくりのプロセス戦略

市民のこの土地への係わり方を組み立て、公園づくりのプロセスを重視し、プロジェクトとしてつくり続ける公園とする

街の遺構（街路、聖人堀、史跡、建物基礎）
本来の自然に回帰した湿地環境

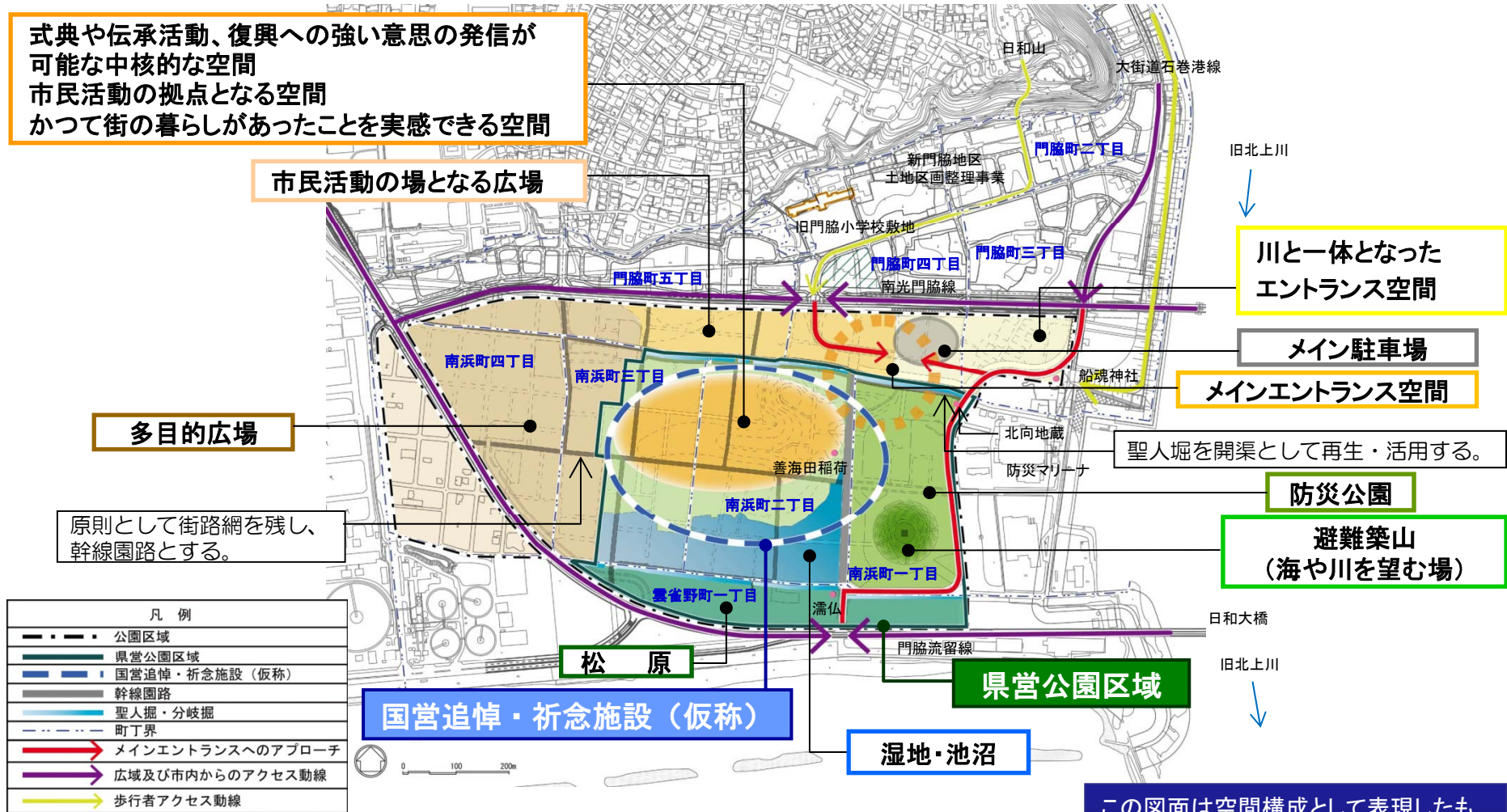
地震と津波、その後の火災で甚大な被害を受けた記憶
日和山に避難した記憶
犠牲者への追悼と鎮魂の想い
災害への備えと教訓の伝承の想い

震災前の街の記憶
元住民の暮らしの記憶

集落の形成された微高地
善海田と呼ばれた水田と湿地
浜堤地形と松原
水や海の安全を祈願した史跡

6. 基本計画の概要

(3) 基本構成図



※濡仏、善海田稻荷、北向地藏などの神社・仏閣は、公園区域から除外し存置。

6. 基本計画の概要

(4) 植栽模式断面構成とイメージ(南側)

クロマツ海岸林



- ・公園への潮風を緩和させる、かつての土地利用であった浜堤のクロマツ林
- ・明るい林内に四季の彩りが展開する

鳥：シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハシブトカラス、ハシボソガラス

鳥：ノスリ、トビ、カケス、シメ、アオジ / 昆虫：エンマコオロギ、ツツレサセコウロギ

鳥：トビ

クロマツ・常緑低木林

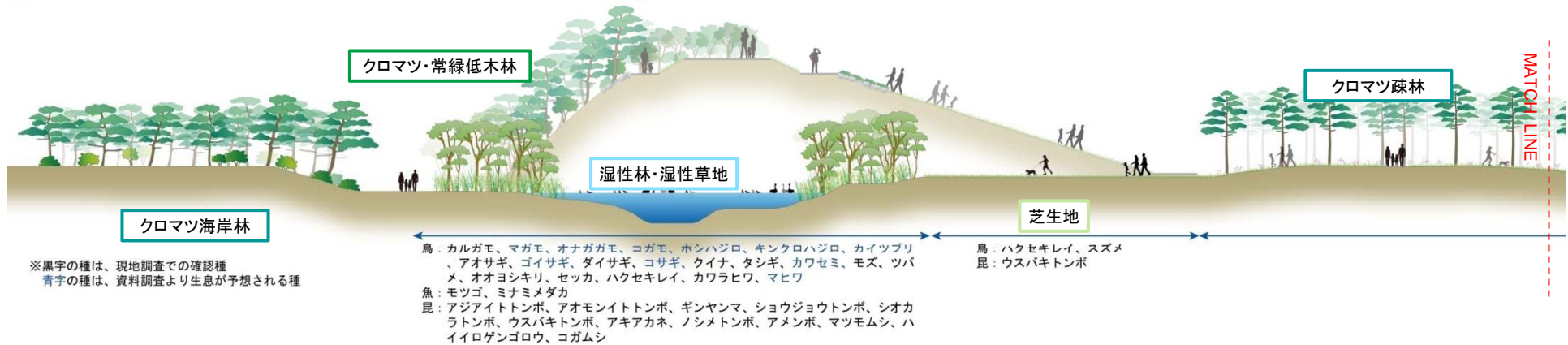


- ・高台斜面の海と河口からの環境圧を考慮したクロマツと常緑低木
- ・津波の届かない安全な空間であることを示すヤブツバキ

クロマツ疎林



- ・広場などの開けた空間の風環境を緩和させるクロマツ疎林
- ・林内での諸活動も可能な、足元の抜けた明るい林床



湿性林・湿性草地



- ・かつての土地利用を想起させる、湿性林や湿性草地
- ・水面や湿地等の多様な環境に生きものが生息する、人が立ち入らないサンクチュアリ

芝生地



- ・開放的な広場利用を可能にする芝生地
- ・かつての街割を示す遺構や表示を際立たせる

6. 基本計画の概要

(4) 植栽模式断面構成とイメージ(北側)

庭園樹植栽地(仕立てクロマツなど)



・かつての住宅地を想起させる、仕立てのクロマツなどの庭園樹植栽地

ヤナギ並木



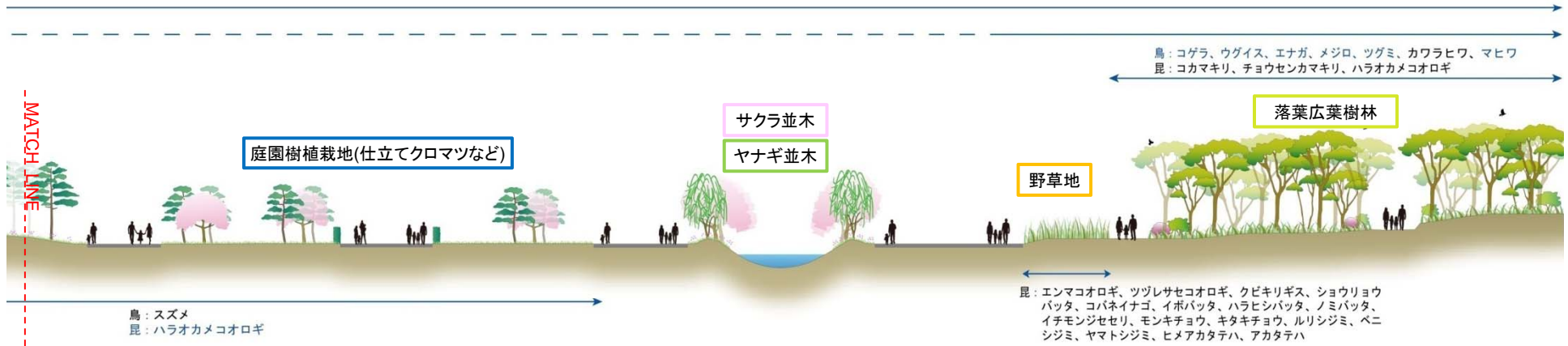
・聖人堀を演出するサクラやシダレヤナギの並木

サクラ並木

落葉広葉樹林



・日和山と公園のみどりの繋がりを創出し、夏季の南東風を緩和させる落葉広葉樹林
・樹林性の多様な生きものが生息する明るい樹林



野草地



・バッタやチョウ類などの草地性の多様な生きものが生息する、四季の彩り豊かな野草地

ハス植栽地



・かつての湿地の土地利用を再編し、鎮魂の場を演出する大きなスケールでのハス池

修景植栽

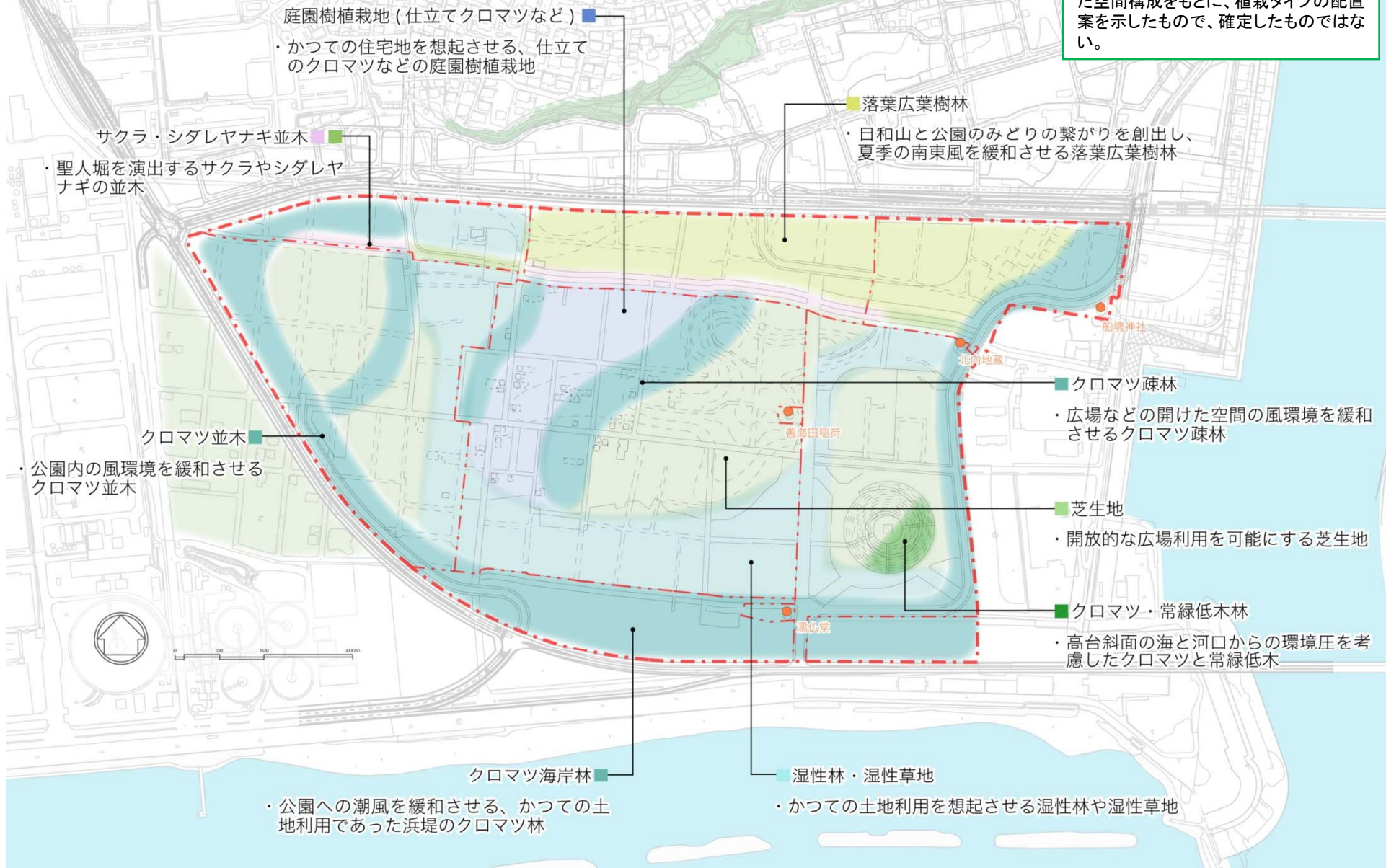


・各々の植栽タイプに見合う花木や草本類を組み込み、自然な修景植栽を行う

6. 基本計画の概要

(5) 植栽タイプの配置案

この図面は空間デザイン部会で検討した空間構成をもとに、植栽タイプの配置案を示したもので、確定したものではない。



6. 基本計画の概要

(6) 杜づくりのプロセス

